

【学校名】 小林市立紙屋小学校

活動の概要

- 野菜作りを中心に、納豆菌培養液を作成して無農薬で野菜作りに挑戦したり、地域の方との連携を図りながら、ハーブ栽培などを行ったりした。
- 児童を対象にSDGsに関する学ぶ日（環境教育デー）を設定し、児童・保護者・地域の方と一緒に参加する活動を行った。
- 各教科・総合的な学習の時間等との関連を図る作業を行い、環境教育に係る教科別指導内容の一覧の整理を行った。

SDGsの視点： 1「貧困をなくそう」 2「飢餓を0に」 3「すべての人に健康と福祉を」 6「安全な水とトイレを世界中に」
11「住み続けられるまちづくりを」 12「つくる責任 つかう責任」 13「気候変動に具体的な対策を」
14「海の豊かさを守ろう」 15「陸の豊かさを守ろう」 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

事業の実施時期： 補助を受けた日から令和7年2月28日

1 学校の概要

本校は、教育目標を小・中学校の共通の教育目標である「自己を鍛え 心豊かで 自信をもって行動する児童・生徒の育成」とし、豊かな自然に恵まれた環境のもと、小中合同の田植え体験や稲刈り体験、30年ほど前の文科省・県・町指定の勤労生産学習ではじまった芋ほりの継続・伝統芸能である城攻め踊りを地域との連携を図りながら、代々継承して取り組んでいる。

2 活動のねらい

児童がこれまで行なってきた活動を継続しながら、4R、SDGsの観点に結び付けて活動を行うことにより、環境に対する意識を高めるとともに、自ら環境への意識が高まり、自ら気づき、主体的に行動できる児童の育成を図る。

3 活動内容

(1) 納豆菌培養液作りと堆肥づくり

今までの野菜作りを基本とし、4R活動として、卒業式で使った植木鉢の土を再利用し、畑の土と混ぜ、納豆菌培養液を作成し、土をふかふかにして新たに野菜作りをした。また、職員室で使ったコーヒーかすを利用して、たい肥作りも行い、野菜作りで活用した。昨年度までは納豆菌培養液もなかったのが、新たな取組になり、児童も目を輝かせながら、納豆菌培養液作りをしたり、堆肥作りをしたりした。



結果としては、無農薬であるが害虫もつかず立派な野菜が収穫できて環境に良い取組となった。

(2) 環境教育デーの設定

1・2年生は4R活動として毎日給食で飲む牛乳パックを再利用して、はがきづくりを保護者と一緒にした。環境教育デーは日曜日に実施したことで、保護者や兄弟の協力も得ながら実施することができた。特に、中学生のいる兄弟では、なかなか小中で活動することが少ない中で一緒に活動することができた。また、今回のSDGsの活動を行う中で、家庭や地域の人にも環境について一緒に考えるよい機会となった。できあがったはがきは家族や地域の方に手紙を書いた。このことは、本校の環境教育について知っていただくよいきっかけとなった。



3・4年生は、NPO法人SDGsAssociation熊本 代表理事の神田みゆきさんを講師に招き、SDGsに関するカードゲームをした。環境・経済・社会などのいろんな課題をクリアしていくゲームで、子供も親も協力しながら、カードゲームを楽しんだ。カードゲームを通して、私達が一つしかない地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するためには、一人では解決できない問題をみんなで力を合わせて解決していかなければならないということを学んだ。



5・6年生は、トヨタ自動車を召喚し、環境と未来の車社会について講話をしてもらったあと次世代型電動車いすの試乗やスマホで自動運転の駐車体験をした。自動運転の進化は世界の道路交通事故死傷者を半減させることで、SDGs目標3の「世界中の人の健康と幸福を実現するための目標」にもつながることを学んだ。



また、6年生は、学んだことをさらに広める取組を行った。こすもす科で小林市の3H2O(水・星・ホテル・花)を守ることや美しい町づくりのために、自分たちでできることを考えたり、実践することができるよう、市の商工観光課の方に講話をしてもらった。その後、調べたことをまとめたり、紙屋の自然に関する伝統や文化を守る大切さを伝えるためのポスター作りを行ったりした。そして、地域に発信するために公民館や商業施設・役場・郵便局などに掲示をした。



(3) 環境集会の実施

環境集会では、自分たちが学んだことを発表した。児童の発表の中では、「これからごみのポイ捨てをしないようにしようと思う」「電気はこまめに消すようにする」「困っている人がいたら助けてあげたい」など、これから自分たちでもできるSDGsの取組も発表していた。その後、自分たちでできる活動をクラスで話し合い、目標を決めて、全校でも取り組んだ。



(4) 環境教育に係る教科別指導内容別の一覧表の整理

環境に係る授業がどんな教科に盛り込まれているかを一覧表にした。

この一覧表をもとに、体験活動と各教科等の授業を関連付けて指導できるようにし、目指す児童像の具現化を図った。

4年生では、社会科見学で行ったごみ処理場やダム・水源地などの見学後に学んだことを新聞にまとめたり、5年生では、国語科で、「自然環境を守るために」という単元で自分が興味のある環境問題についてテーマを決めて意見文を書いたりした。いろんな教科で環境に関わる学習があることがわかり、一覧表を作成することで視覚化することができた。



4 成果と課題

【成果】

環境教育に特化した環境教育デーは児童も大人も保護者も楽しみながら環境教育に取り組むきっかけになった。また、環境問題について詳しく知ることができた。また、日常生活でも環境問題について考え行動する児童が増えた。

納豆菌培養液は、安全で安心して食べられる食物の栽培面や動物や土・水の自然に優しい循環型の取組になった。

【課題】

小中9年間を見通した取組といかに環境教育の意識を高め続けていくかが課題と思われる。

学校名：小林市立紙屋小学校

住 所：小林市野尻町紙屋 1766-1

電話番号：0984-46-0107

E-mail：1433ea@miyazaki-c.ed.jp